

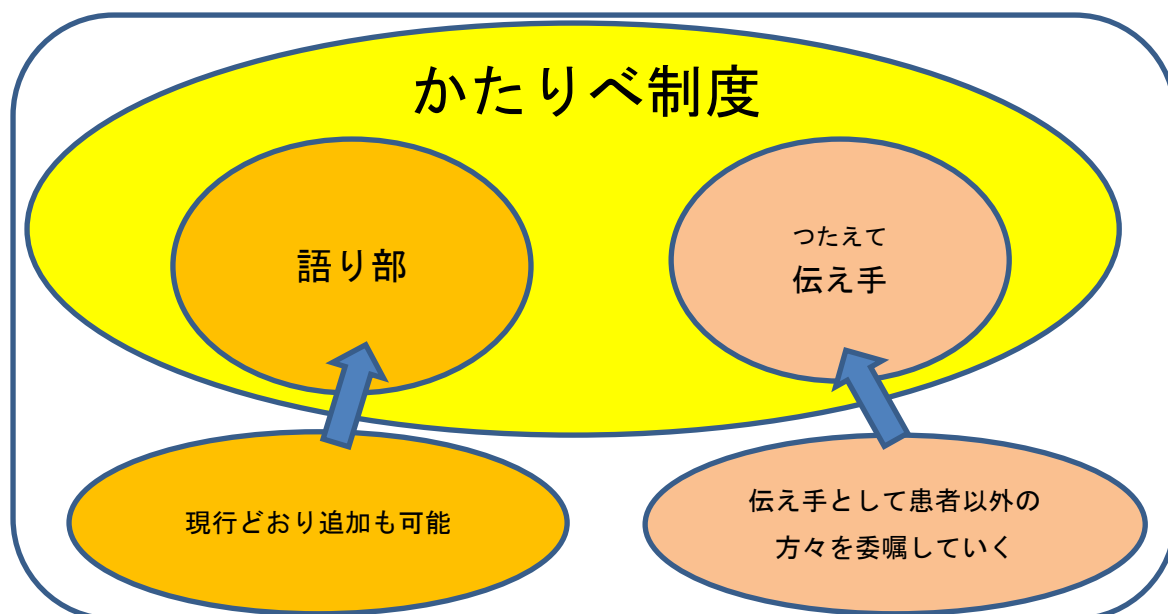
水俣市立水俣病資料館「かたりべ制度」「伝え手制度」について

○「かたりべ制度」への移行（「伝え手制度」の確立）

現状の語り部に加えて「伝え手制度」を創設し、「かたりべ制度」として再編成する。

○現行の語り部以外の方々は、「伝え手」として講話ができる方を増やしていくため、患者及び患者家族以外の方々を追加していく。現行の語り部と「伝え手」を併せて、「かたりべ制度」とする。

○制度構成図



○経過

- ・年々減少する語り部の人員確保に苦慮し、昨年度まで、解説員講座の実施や語り部の会との話し合いなど、今後の進め方を協議した。
- ・本年4月、語り部の会総会にて、制度について説明。「かたりべ制度」へ移行し、「伝え手制度」の導入について実施することを確認した。
- ・4月候補者は資料館にて候補者を定め、試行していくこととし、実施に向けた準備を始める。
- ・6月から「伝え手」の施行を開始。（6/20 坂本直充さん小学生に向けて）
- ・9月から遠藤さん、浮嶋さん、吉永さん（11月）の施行を実施
- ・内容について精査をし、4人を「伝え手」とすることを決定
- ・平成30年（2018年）11月26日委嘱状交付。

□今回委嘱する「伝え手」

- ・ 吉永利夫さん
- ・ 遠藤邦夫さん
- ・ 坂本直充さん
- ・ 浮島清己さん

「伝え手」一覧					
	氏名	生年月日	出身	所属(肩書)	期待される講話の内容
1	吉永利夫 (よしなが としお)	1951(昭和26) 3.21(67歳)	静岡市 (水俣に来たのは1972年)	(一社)水俣病を語り継ぐ会 水俣病支援・団体・修学旅行誘致・人権問題	水俣病センター相思社所属時代から、患者の救済支援やその活動、水俣病に関する基礎的知識、修学旅行誘致や観光視察旅行の案内など、幅広い観点で講話ができると考えられる。これまでも語り部補としての活動、語り部の会の事務局長として活動し、語り部の代わりに話した実績もある。
2	遠藤邦夫 (えんどう くにお)	1949(昭和24) 9.27(69歳)	岡山県鴨方町 (水俣に来たのは1987年)	元相思社 水俣病支援・団体・JICA視察・人権問題	水俣病センター相思社所属時代から、患者の救済支援やその活動、水俣病に関する基礎的知識等、幅広い観点で講話ができると考えられる。これまでも語り部の代わりに話した実績もある。JICA研修受け入れの経験もあり外国人への英語での説明も可能である。
3	坂本直充 (さかもと なおみつ)	1954(昭和29) 11.17(64歳)	水俣市丸島町	元市職員 水俣病行政・患者障害者の気持ち・差別人権・詩人	元資料館館長。自身も身体的な障がいもあり、水俣病の話だけでなく障がいの立場や支援についても話せる。水俣病に関する深い知識がある。水俣病と障害者の間で揺れ動く心様を話し、水俣の複雑な地域社会の表現ができる
4	浮島清己 (うきしま きよみ)	1946(昭和21) 11.26(72歳)	天草郡大矢野町(現在の上天草市)出身 3歳のころ水俣へ	浮島瑞花園代表 地域づくり・チッソ工学校・菜の花事業	元寄る会みなまた代表世話人。前火のまつり実行委員長水俣の再生に向けた市民活動を支えてきた話ができる。元チッソ工学校の出身としての思いなども期待できる。 チッソへの憧れからチッソ工学校に入り、自らが望んでいた仕事、やりがいのある仕事をしてきたが、家業を継ぐため退社し、そこから立場の違いを感じて、水俣を再生していくために尽力していく。

※この他、亡くなった語り部や現在語り部として活動していない方々の原稿やDVDを使った語り部講話も職員によって実施していく。

(現在実施できる方々：故金子スミ子さん、故前田恵美子さん、休止中：川本ミヤ子さん)

※今後順次増やしていく予定